



NAMBA speaks

理事・事務局長：難波 昭彦

国際交流・・・ミャンマーと私

CDMJはその活動の柱の一つに「国際交流」を掲げています。中米のコスタリカと交流を続けている臼井会員、北米西海岸のサンノゼ市と交流を続けている岩谷理事、他にもそのご子息が海外に在住中の会員もいて、国際交流を促進していくには十分の人材を抱えているのがCDMJです。また事務局でも、スペイン語講座、韓国語講座を開設しているのは既にご紹介している通りです。

政治／経済／社会／文化と、あらゆるジャンルがグローバル化のなかで大きく転換しつつある現在、CDMJが国際交流を推進していくことは大きな社会貢献に繋がるものと考えています。

今まで取り組んで来たコミュニティー・中山間地域・中心市街地の活性化、子どもの健全育成、雇用の促進といった活動から見えて来た課題は、先進諸国が抱える課題と共通するものが多くあります。また、これから民主化に取り組む、資本主義経済に転換していこうとしている国々においてもやがては、今、日本を含む先進諸国が抱えているのと同じ課題を抱える事になるのではと思われてなりません。発展途上の国々が同じ轍を踏まないように、我々の経験を生かせる場合は、国際交流を推進していく事でさらに拡大していくのです。



表題のミャンマーについて

私とミャンマーの交流は2003年から始まります。足掛け9年、今年1月の訪緬（ミャンマーの漢字略表記）で15回になります。最初の訪緬のきっかけは、第二次世界大戦中にビルマ（ミャンマーの旧国名）戦線に派遣されていた私の父に付き添って訪れた事でした。訪緬前は軍事国家という事で、またマスコミでもその負の面の記事ばかりが目立ち、身構えていたのですが、訪れてみてその不安は一気に解消されました。

私の第一印象は、国民が優しい事、穏やかな顔をした人が多く笑顔が綺麗な事でした。日本のことを悪く言う人にはほとんどお目にかかりません。私の父からも、その生前に、戦時中現地の人たちに世話になった話を多く聞かされていたこともあり、初めての訪緬で一気にはまり込んでしまいました。

さて、現在ミャンマーは民主化に向けて大きく舵を切り、資本主義経済の仲間入りをするべく動き始めました。既に日本を始め諸外国の大資本がうごめき始めています。怖いのは、資本家の原理で急激に発展させられる事が果たして国民一人一人のボトムアップに繋がるのか、今、先進諸国（BRICSも含む）で進んでいる二極化、格差の拡大に繋がるのではないかという事です。

そのようにならない為にも、微力ではありますが今までの私の経験を生かした交流が続けられたらと考えている所です。現地からも色々なリクエストを頂いています。

ミャンマーに興味のある方、特に、海外で自分の力を試したい、一旗揚げたいと考えている若者の皆さん、一緒にミャンマーへ行きませんか。



CDM 図書室便り

<私のお勧めの一冊>

推薦者：岡本 直樹

「忘れられた日本人」を訪ねて

- ・ジャンル：民俗学／写真集
- ・巻頭エッセイ：佐野真一
- ・著者名：宮本 常一
- ・出版社：平凡社（別冊太陽）
- ・初版年度：2007年8月

<表紙のことば>より

“民衆の知恵をめぐって、旅する稀代の民族学者。「日本人」とはなにものか。その答えを求めて、土地土地の風景と人間の歴史を収めた膨大な記録と写真群一。そこは日本人が過ごした豊かな時間に満ちている。”

近年ますますその業績の評価が高まっている宮本常一。彼を知る上で、最適の入門書。生半可な芸術写真など吹っ飛ばし濃密な記録写真の数々。笑顔の美しい昔の日本人に会える。



広告欄

お金のプロ・FPによる無料相談

ムダのない家計管理をアドバイス

「将来に備えたお金のこと、無駄のない家計のやりくり・・・どうしたら？」そんな方にFP（ファイナンシャルプランナー）が、ご相談に応じます。特に以下の事項を重点的に掘り下げます。

- ① ライフプランニング（あなたの人生設計）
 - ② 各種保険の見直し
 - ③ 住宅ローンの組み立て、組み替え
- ご相談は何度でも無料！予約の上、来店いただくか、出張での相談もいたします。遠方の方もご遠慮なくご相談ください。詳しくは、以下へお問い合わせください。

(株)ライフゲート 岡山事務所

0800 (200) 1020

営業時間：午前10時～午後6時

倉敷市田ノ上新町14-7 リードビル2階

Eメール lg-kurashiki@da3.so-net.ne.jp

http://www.lifegate.jp/company.html

本社：東京都中央区新川1-8-6

秩父ビルディング4F



シーディーエムジャパン クォーターリー 【年4回発行】編集長：岡本 直樹

特定非営利活動法人 コミュニティーデザイン アンド マネジメント ジャパン

〒700-0816 岡山市北区富田町 2-12-16 センチュリー富田町ビル 701

TEL 086-236-0904 FAX 086-236-0905 info@cdmj.or.jp

Website
http://cdmj.or.jp/

twitter
@npocdmj

できました。移住者物語。

「CDM ジャパン」が、現在まで空き家調査などを通して関わってきた、岡山県内のユニークな移住者さんへのインタビューをまとめました。

農業に携わる方だけでなく、芸術家さんや、パン屋さんなどなど。田舎暮らしを楽しんでいる皆さんの声を聞いてみてください。

2011年夏～2012年春にかけて、取材を行いました。震災の影響もあり、都市部から岡山県への移住者も増え、注目度が上がっている岡山県。

とあるアンケートによると、岡山に住んでいる岡山県民自身が、岡山県の魅力に気付いていない、という結果も出たそうです。

都市部の住民から見て、それほど大都市から遠くなく、“程良い田舎”というのは、移住の条件として大事だそうで、実際、今回の取材でもそのような声がよく聞かれました。

取材して感じてしたのは、皆さん前向きで、田舎の生活で起こることを全て楽しむ余裕が感じられることです。生活の場を田舎に選んだけれども、やりたいことは我慢しない。ないものは自分たちで作ればいいという姿勢。田舎だから農業しかない、というわけではなく、選択肢もたく

さんある、ということを教えられました。

田舎で農業をしたかったという夫婦や、元漫画家で、今は豆腐作りをしている方、福祉に興味を持ち、NPO法人を立ちあげて幼老統合ケアという新しい試みを行う方、ヨットが好きで、瀬戸内海の離島でヨットを扱う会社を作ったカナダの青年、ホワイトカラーというよりグリーンカラーワーカーとしての道を選んだ方、オリジナル家具作りに汗をかく人、夫は仕出し屋、妻はチャイルドケアの夫婦。就農以外の選択をした人たちも出身、経歴、様々です。本文でも紹介していますが、もちろん全てがバラ色であるはずありません。病気になることの心配、年老いた親の世話、子供の教育など、悩みも多々です。

それでも皆さんの生活には希望が見えます。都市生活で失ってしまったかに思える生命力が復活するからだと思います。「移住」を少しでも考えているなら、この小冊子を手にとってください。

入手方法は、CDM JAPAN のホームページをご覧ください。

<http://cdmj.or.jp>

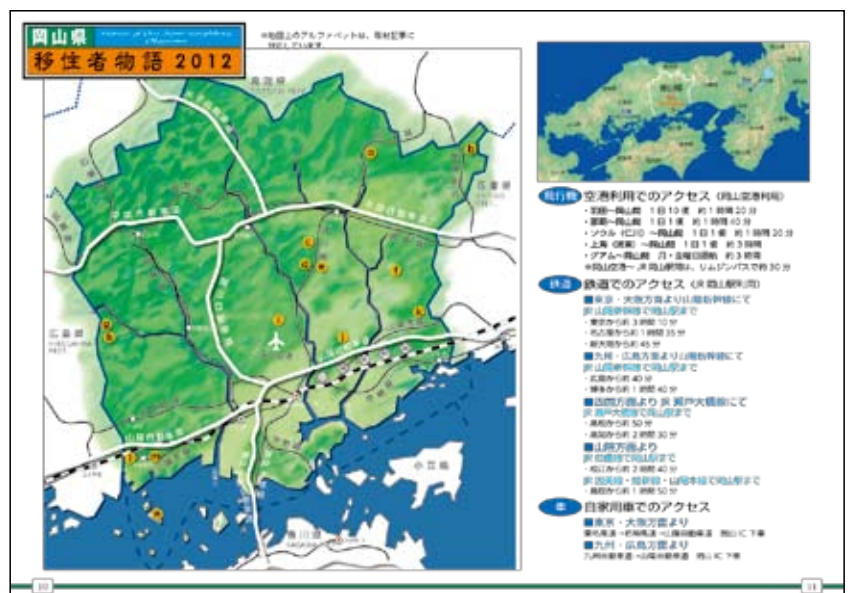
取材：岡本 佐藤



内容を少しご紹介すると、
 ・岡山県の概略（気候、産業、地図、アクセスなど）
 ・移住定住の支援制度
 ・県内14家族の移住体験記事
 となっています。



生活風景の写真、田舎暮らしのコツなど、14家族の貴重な体験談を集めました！



岡山県への交通、移住に関わる補助金などの基本情報も、もちろん押さえてあります。

新しい集落のあり方を探る ①

“中山間地域でのコーポラティブ・ファーム・ビレッジの可能性”

論説：建築家・コミュニティデザイナー／難波 昭彦

前回は、コーポラティブハウスについて取材しました。実際に岡山市内で機能している姿を目の当たりにしました。今回は少し方向性を変え、中山間地域での新しい集落の在り方、それも難波さんが2～3年前から提唱しているコーポラティブ・ファーム・ビレッジについて話していただきました。

コーポラティブ・ファーム・ビレッジ（以下CFVと略）とは、耳慣れない言葉だと思いますが、私が作った造語です。コーポラティブ・ビレッジ（CVと略）の方が分かりやすいのですが、CVは既に都市近郊の通勤者向けの宅地分譲の時に使われる手法として定着しつつあります。CFVはそれとは違って、中山間地域で、第一次産業やそれに関連した2次3次の産業さらには4次の産業に取り組もうとする人たちのための新しい集落づくりの手法です。その意味するところは、協働の精神で集った人々の住宅群と、それらを取り巻く、パーマカルチャー農地（生業の場として、森林・漁場も含む）の結合体です。

前回のコーポラティブハウス（以下CHと略）は、互助の精神はありましたが、業としての協働はありませんでした。中山間地域で第一次産業に従事しようとするれば、なかなか一人でやってゆけるものではありません。どうしても他人との関わり合いが不可欠です。特に有機農法でやってゆこうとすればある程度の広さは絶対必要になってきます。自分だけの土地では無理ですし、水の共同管理、汚水処理の問題等、集団で対処しなければならないことが多く発生します。そういう意味でも、“環境を守りたい”という、エコ意識の高い人々が集まり、新規に共同体を形成できれば理想に一步近づくわけです。

そういった夢を語る前にまず、私自身が考える第一次産業を取り巻く現状について述べてみたいと思います。

中山間地域の一次産業はこのままでは壊滅してしまうのではという危機感から、近年、都市部からの移住・定住の促進が提唱され、地方でも多くの自治体がそれに取り組んでいます。根本の原因は、数十年前の中山間地域から都市部への余剰労働力の大量移動であり、当時「三ちゃん農業」と言われながら一次産業に携わっていた人たちの高齢化と少子化による労働力不足が原因であることは今となっては明白です。我々CDMJが岡山県内において3年間携

わってきた「中山間地域での空き家調査」も、移住・定住を希望している人のために空き家を活用しようということで進めた事業です。本年度のデータ整理が未だ途中ですが、昨年までの二年間で、空き家を貸したい・売りたいと、持ち家の活用を希望されているケースは200件に上っています。しかしながら、都市部からの移住希望者が（特に東北大地震以降）多いにも関わらず、なかなかスムーズな流通への進展は見られません。私なりにその原因についてずっと考えてきたことがあります。「誤解だ」とお叱りを受けるかもしれませんが取って述べてみますと、

1. 風習というよりも因習というものに都市部の人は付いていけない。それを受け入れてまで既存の集落の一員にはなりたくないと考えているのではないのでしょうか。江戸時代以前から代々続いているような古い集落ほど伝統的風習が根強く残っており、現代に生きている者、特に都市部で生まれ育った若者達から見るとそれを因習と感じてしまいます。また、それを理解し受け入れるまでに数年かそれ以上の年月を費やしてしまい、精神的ストレスが溜まることに耐えられないのではないのでしょうか。
2. 都市部から移住しようと考えている人たち、特に若者達は、移り住んだ地で生業として一次産業やそれに関わる二次・三次・四次の産業に携わり、本人の、また家族のライフプランの実現を夢見ています。こういった人たちは当然ですが、3～5年で先の目処を立てようと考えている人たちがほとんどではないでしょうか。こういった人たちを積極的に受け入れ、協働して自分たちの集落を再生し、持続させていきたいのであれば、その地域のリーダーは、既存の住民の皆さん



新しい集落▶

コーポラティブ・ファーム・
ビレッジのプロポーザル・
ドローイング

の意識改革にも取り組まねばなりません。そのためには、おそらく言葉は悪いかもかもしれませんが、世代が変わらなければ、それも1世代ではなく、2世代、3世代と代替わりしないと無理なような気がします。理想かとは思いますが、地元から都市部へ出て行った人たちがUターンして一度住んでみる、住みながら親兄弟、子供の頃ともに育った人たちと地域の将来を考えてみる、このような経過を踏まない限り、地域の将来のビジョンは描けないのではと感じています。こういった人たちから、地域と都市部の若者達とのつなぎ役になる人が現れることを望んでいます。都市部に出て行った人たちの地域に対する愛着にどうしても期待したくなります。

3. 移住者が成功している事例もいくつか見てきましたが、ほとんどが、個人か一家族でやれる範囲にとどまっている様に思います。例えばこんな農家のケースがあります。

【集落営農に取り組むことを地域のリーダーに進言したものの、高齢化のため無理と言われ、既に自分自身も70歳を迎えようとしており、体力に自信がなくなってきた。(10年前には地域を支援しようと思っていた移住者も、今は支援を求める側に回ろうとしている)

ぶどう農家として見通しは立った。ただ、栽培の世話と、出荷で手一杯で、2次加工やネット直販まで手が回らない。人手さえあればと悔しい思いをしている。】

こういった声を聞くたびに、既存の集落の人たちとの協働の仕組みさえ確立できればと感じてしまいます。

これも想像ですが、今の時代の協働は昔のそれとは大きく変質してしまっているのではないのでしょうか、今一度集落のみんなが生業として一次産業に取り組んでいた頃の協働を思い起こしてみる必要があるのではないのでしょうか。田への水張りや草刈りだけでなく、作物を育て収穫し、余ったものを皆で加工し、共に市場に売りにいった、そんな時代をもう一度思い起こし、本当の協働を取り戻さない限り生業としての一次産業は生き残れないし、集落、ましてや農地が生き残ることは出来ないのではと感じています。

このような考えのもとに、集落を存続・復活させるためには協働の仕組みを復活させるしかないのではという思いに至ったのです。そして既存の集落に新たな移住者を迎え入れることと並行して新たな集落を創ることも考えるべきではとの思いに至ったのです。それが私の提唱する、コーポラティブ・ファーム・ビレッジです。

今回のクォーター誌上では、難波さんの提唱する、このコーポラティブ・ファーム・ビレッジをもっと具体的に語っていただきます。 編集部：岡本

㊤ コーポラティブハウス

入居希望者が集まり組合を結成し、その組合が事業主となって、土地取得から設計者や建設業者の手配まで、建設行為の全てを行う集合住宅のこと。

㊦ パーマカルチャー

パーマナント(永続的な)カルチャー(文化)の略。自然に優しい方法で、伝統的な生活と現代の技術を融合させながら、持続可能な暮らし方を探ること。

WHO'S WHO

林 洋治



朗らかな性格と言動で皆に親しまれている林洋治さん。林さんは生まれも育ちも岡山県の早島町です。毎号 CDM クォーターリーにも広告を掲載している(株)ライフゲート岡山事務所の代表でもあり、CDM ジャパン設立発起人の一人でもあります。現在 54 歳。

林さんの略歴：岡山県立岡山南高等学校、京都産業大学経営学部卒。医薬品卸会社にて営業として社会人の第1歩を踏み出す。

10年後、もっと視野を広めようと、岡山県中小企業研修情報センター(現 岡山県産業振興財団)に転職し、情報相談業務、情報誌担当となる。3年半後、ソニー生命保険会社への転職をきっかけに再度営業の世界に戻り、11年務めたのち、48歳で独立、現在に至る。

CDM との関わり合いについて

そもそものきっかけは、コミュニティーの再生について熱く語る難波氏に出会ったことであり、彼の語る将来のビジョンに共鳴したためだそうです。最近とみに感じることは、多くの人が保険制度、年金制度等についてあまりに関心ない状況にあるため、NPO 活動を通じて、それらの情報提供をしていきたいそうです。特に岡山への新規移住を考えているような人には、個別にライフプランについてのアドバイスもできるとか。頼もしい!

(岡本取材 2012.5)

会員の活動のご紹介

韓国語講座／大西謙一郎

韓国語は文法も発音も日本語と非常に近くて、先日のワールドビジネスサテライトの番組のなかでも、日本人が外国語として勉強してものにできるのは、スワヒリ語、トルコ語、モンゴル語、韓国語、インドネシア語と紹介していました。

3ヶ月間、発音を徹底的に練習して、後は漢字を韓国語風に発音すればそれでももう60%は韓国語ができたと思ってください。なぜなら韓国語と日本語の共通漢字として、韓国語の中で60%が漢字語として使われているからです。ただ韓国語のように漢字を発音するためには、日本語の4倍(21個)ある母音を覚えなければなりません。でもしようがないです、いつも私達は5母音しか日常で使っていないのですから。

では韓国語の漢字語発音で全く同じ発音もありますので紹介します。

※道路、計算機、料理、夜間、茶、準備、簡単、無味、のようにそのまま発音すればよい漢字が多くありますので、それだけ韓国語の勉強は簡単ということです。

興味をもたれた方はこの機会に勉強を始めましょう。(大西)

お問い合わせ：韓国語講座

毎週 木曜日 19:45 ~ 20:55

の1時間15分

社会人向き、会話が話せることに重点を置きます

